■■■　「多文化共生」を考える研修会2020を終えて　■■■

例年多くの方にご参加頂いている「多文化共生」を考える研修会は今年で20回目を迎えましたが、コロナ禍により開催時期が遅れ、結果初めてZOOMを使ったオンライン開催となりました。私は司会とホストとしての参加者管理をさせて頂きました。
今年の研修会は第一回「総論」、第二回「外国にルーツを持つ子どもの教育」、第三回「地域における多文化共生の取り組み」、第四回「難民・移民支援の現状」の4つのトピックで開催しました。時節に合わせた「今」知りたい、「今」考えるべきことをスタッフ一同で検討し、それぞれ第一線で取り組まれており造詣の深い方々を講師にお招きしました。各回で俯瞰的・客観的なお話と具体的事例のどちらも伺える構成になっており、いち受講者としても大変勉強になりました。今年参加が叶わなかった方も、ぜひ来年はご参加頂ければと思います。

第一回「総論」では自身がフィリピンのルーツをお持ちで、現在は(公財)とよなか国際交流協会でご活躍されている三木幸美様に「見えない境界線に生きる～多様性を当たり前にするために～」と題してご自身の幼少期からの経験や思いを踏まえたご講演をして頂き、続いて外国人の在留資格などの関わる判例を多く扱ってこられた弁護士の山口元一様に「入管法90年改正から30年-『日系人』受け入れを振り返る」と題して外国人をめぐる法律の変遷や、時代を経ても日本社会が短期的な定住しない労働力として外国人を求めてきた経緯を分かりやすくお話頂きました。

第二回「外国にルーツを持つ子どもの教育」では「『発達障害』とされる外国人の子どもたち」を執筆された金春喜様より教育現場で聞き取り調査をされた際の事例を仔細にご紹介頂いたのち、神戸市教育委員会学校教育課の辻敏彰様に「外国ルーツの子どもと保護者の困りごとへの対応、神戸市の新しい取り組み」と題してご自身のインドネシアでのご経験なども挟んで場を盛り上げて頂きつつ神戸市の取り組みをご紹介頂きました。

第三回「地域における多文化共生の取り組み」では、(公財)愛知県国際交流協会の杉山美紀様、豊橋市市民協創部多文化共生・国際課の三輪田貴様に愛知県と豊橋市における多文化共生の取り組みを伺いました。NGO神戸外国人救援ネットの草加道常様のご講演「外国人住民への新型コロナの影響」では、神戸の外国人住民の状況とコロナの影響をデータ・事例で改めて見直すことができました。

第四回「難民・移民支援の現状」では、認定NPO法人難民支援協会の石川えり様より日本の難民支援の現状について詳細にお話し頂き、三木市国際交流協会の河越恭子様より「地域における多様性理解～心の距離を縮めるには～」と題して三木市の取り組みやシリアの方々の事例を、動画をまじえて臨場感あふれる形でご紹介頂きました。

運営面ではZOOMの設定上、司会と参加者管理(出席者チェック、ミュート管理など)を同時に務める必要がありました。講師の方々と事前打ち合わせを行って画面共有など操作方法や注意事項を確認し、ZOOMの補足勉強も一応して臨んだことでそれなりにうまくいっていた面もありましたが、多くの人とそれぞれの端末が絡んでいるためか不測の事態がよく発生し、全体としては大

変苦戦しました。複数のことに同時に気を配りながら進行していたため、「参加者の表示名が申込時と違う」であるとか、「諸要因で想定した時間に講師の方のログインが確認できない」「途中で講師の声が聞き取りにくくなる」などの異常が起こるたび対応に気を取られてしまいました。質疑応答の際も、チャットで来た質問を、文が不完全な場合は補足理解して講師の方に伝えることに苦心しました。なんとか4日間終わったという感想です。設定の仕方(有料オプション含め)やより入念な事前確認で回避できたトラブルもあったので、そのあたりの教訓は今後に生かしたいです。一方、参加定員を超える申し込みがあってどの回もお断りする方が出ていたにも関わらず、無断キャンセルが各回何十人もあったことは残念でした。また、アンケートを見ると、「会場で研修会を行った場合には参加者同士が知り合う機会を得られるが、オンラインではそれができないので残念」という声があり、対面の研修会の良さも再認識しました。一方で、「オンラインだからこそ遠方から参加することができた」という声もありました。
オンライン開催であるゆえのメリット、デメリット、運営上の課題などありますが、ひとまず今年も開催すること自体ができて良かったと思います。今後も状況によってあらゆる面でオンラインを取り入れていかなければならないと思いますので、今回の経験を今後に生かしたいと思います。ご参加頂いた皆様、ご関係の皆様、ありがとうございました。（大石 貴之）

■ ■ ■ ハナの会■ ■ ■
◆魚釣りで何釣れる？

今年もデイサービスセンターハナの会では敬老会を開催しました。
準備段階から、プログラムに貼るお花つくりや魚釣りゲームで使う魚の色塗りなど、利用者さんにも協力してもらい、その日を迎えました。
当日は、理事長からの励ましとお礼の言葉を頂き、いつもお世話になっている高齢者に対して、スタッフ一同「敬老の日、おめでとうございます。いつもありがとうございます」とお伝えしました。いつも会っている方々なので、改まってお伝えするのは、気恥ずかしい気もしますが、伝えてみると、皆さんは微笑んで受け止めてくださいました。
そのあとの、ゲームは盛り上がります。なぜでしょうか。勝ち負けがかかると、皆さん急に背筋が伸びて、「負けてたまるか！」の気負いを感じます。このようなゲームをすると、「私たちが小さいころは、こんなことして遊んだことなかった」とおっしゃいます。日本でもベトナムでも戦争や不安定な社会状況のなかでは、純粋にゲームを楽しむような機会がなかったのでしょうか。改めてゲームを楽しむと、「勝ってうれしい！」「負けて悔しい！」と表情をあれこれ変えて喜んでくださいます。負けたチームは、ダンスを踊ったりします。ゲームは、デイの中では機能訓練の一部ですが、初めてみる表情もあり私たちスタッフも笑い転げて楽しむ時間です。
そして、今年の目玉は、魚釣りゲームです。竿に磁石をつけて、画用紙でつくった魚を釣ります。その魚の中には番号が入っていて、その番号と同じプレゼントを差し上げるというものでした。プレゼントは決して高価なものではないけれど、（最近の百均の質は高い！）なぜか、その人に合ったプレゼントを皆さん、お持ち帰りになりました。そのあとに、利用者さんより一人一人感想を頂きました。いつも無口な方もそうでない方もハナの会について、私たちスタッフに対して気持ちを伝えてくれました。皆さんから感謝の気持ちを伝えてもらえて私たちスタッフも胸が熱くなりました。
一週間のうちの少しの時間ですが、一緒に過ごせることを大変うれしく思います。私たちスタッフの気持ちは「これからも元気でいてください」の一言につきます。

次は、クリスマス会です。例年に比べて縮小開催となりますが、楽しい時間になればいいな、と思います。　　（鄭 秀 珠）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆KFC帰国者新長田交流会の近況

ＫＦＣ帰国者新長田交流会は、6月に再開してから以前ほどの人数ではありませんが活動を続けてきました。帰国者の方の中には遠方に住まれていて、公共交通機関を使って移動してくることにリスクを感じて外出を避けていらっしゃる方もおられます。ご高齢の方も大勢おられますので、しばらく難しい状況が続くかもしれません。そのような状況ではありますが、外出機会として毎週参加して頂いている方々もいらっしゃいます。現在は10人程度の参加者があり、マスク着用、検温等行いながら活動しています。
内容は日々新しいものに取り組んでいます。日本語学習では台風や服の色(暗くなるのが早くなってきたので)について、或いはインフルエンザ予防についてなど、時期に応じた内容をボランティアの先生に熱心にご提案頂き、ご相談させて頂きながら扱ってきました。また最近新たに問い合わせを頂いて日本語教室への参加を始めた方々もいらっしゃり、皆さん熱心にメモを取って勉強されています。交流活動では、ヨガのインストラクターをされている先生をお呼びしてヨガの体験を行ったり、ふたば国際プラザの大型スクリーンに太極拳の動画を投影してみんなで練習したりと、何かと工夫しています。11月29日には、NPOひまわり会の皆様と一緒に毎年恒例の明舞地域交流会も予定しています。
安全に楽しく交流できる場であるように、引き続き運営していきます。（大石 貴之）

■■■ 「コロナ禍でのランタンTake-out縁日２０２０開催」 ■■■

１０月１６日（金）と１７日（土）の２日間、ＫＦＣとふたば学舎の共催でランタンTake-out縁日２０２０を開催しました。
ＫＦＣの事業は、高齢者支援、子ども支援、日本語学習や生活相談といった社会的な支援が主な活動となっていますが、多様な背景をもつ住民が自らのリソース（資源）を活かして地域（街）で起業する支援活動や地域活性化をする事業にも取り組んできています。
なかなか社会的支援の枠では見えないことですが、ＫＦＣが関わる人たちの作ってくれる珍しく美味しい料理や見たこともない楽器が奏でる聞いたこともない魅力的な音楽などに触れると世界は広く豊かだと感じます。彼（女）らは、チャンスがあれば街の財産となる可能性も感じます。外国ルーツの人財を活かすための働きが神戸には不可欠です。
かつては、外国人のための起業支援講座を開催し外国人の希望が多い飲食店の開店や貿易事業に関して必要な日本での手続きや知識を学ぶ支援などもしました。近年は、法人施設の建設や神戸市施設の運営受託などの取り組みもあって、なかなか外国人住民の起業支援や多文化を活かした地域活性化への取り組みを進めることができなくなっています。
そんな状況ですが、３年前から「ひょうごボランタリー基金地域づくり活動ＮＰＯ 助成事業」の助成金をいただき、ＫＦＣの新たな取り組みとして地域のリソースと外国人住民などのポテンシャルを結び付ける活動を進めています。
１年目は、「地域起業リソースをむすぶ『縁会』」というネーミングで、再開発地域ビルのなかに設けられた地下飲食街の空き店舗スペースに月１回ペースで一日出店希望者を募り、１日限定

の民族楽器演奏などもついたお店を開店しました。地元のまちづくりリーダー、テナント募集会社スタッフや建築家、市役所関係者などに来客してもらい縁（えん）を結ぶ会となりました。
出店は、中国、ベトナム、モンゴル、韓国、タイ、フィリピンと多彩な料理店が並びました。埋め合わせで１回、私（金宣吉）とＫＦＣ学習者ＯＧの看板娘で角打ち居酒屋「ぐうたらや」も愛嬌で出店させてもらいました。「ぐうたらや」はともかく、非常に好評な事業となりました。
去年２年目は、初回は、より多くの人が参加できる地下飲食街全体を使ったにぎわいづくりにしようと考え、東アジアでお祝いされる中秋時期の１０月、昔から中秋で使われてきたランタン（提灯）をたくさん灯すイベントとして計画、演奏会に地元飲食店とアジア料理屋台などが出店する縁（えん）を持つ日・「ランタン縁日」を開催しました。その後、初年度と同じ形式の「縁会」も開催しました。どちらも大変好評で特にランタンを使った縁日は５００名を超える参加者を集め、大盛況となりました。
縁会、縁日に出店してくれていた出店者が、ＫＦＣニュース１５６号で紹介させてもらったベトナムサンドイッチ店・「ＳＡＩＧＯＮ　Ｔｒｕｎｇｈａｉ」を開業するといった嬉しい出来事もありました。
そして今年３年目を迎え、当初より大きく発展させようと地下飲食街スペースだけでなく、ふたば国際プラザの入るふたば学舎も会場に広げる企画を進めていたのですが、ご承知の通り、新型コロナウィルス感染防止のため大きく事業を変更することになりました。
感染防止を確保しながらいままで結んできた縁（えん）をつなげられるようにと屋内での事業はやめ、ふたば学舎屋外でランタン点灯とテイクアウトのみでのエスニック屋台出店、地元商店街（大正筋）のストリート演奏会のみに限定し開催しました。それから新型コロナウィルス感染防止対策として毎年開催される「地蔵盆」がなくなった長田の街で、子どもたちにお菓子を配れる機会が作れないかと考え無料でお菓子の配布も行いました、
開催日は、天気も不安定で点灯させるランタンを着けたり外したり、新型コロナ禍のイベントということで何人来てもらえるのかとヤキモキすることばかりでしたが、たくさんの方々のご協力をいただき無事開催することができました。
あらためてご協力いただいた方々に深く感謝申しあげます。
ありがとうございました。（金 宣 吉）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■
◆「オンライン対応　実習型日本語ボランティア講座」

2020年9月6日～10月15日（毎週日曜日午後2～4時・全8回）に、ふたば国際プラザスタッフ、甲南女子大学非常勤講師の林貴哉さんを主講師に迎え開催しました。自宅からのリモート参加が1回、日本語学習者との実習が3回ありました。
昨春のコロナ禍で私たちが一番辛かったことは対面での日本語教室ができなかったことです。6月からは通常に戻りましたが、今後もしまた第二波、第三波で対面の教室ができなくなった場合、リモートで開催できるようにしておく必要があります。今回はオンラインで学習支援をするための技術を身につけることを1つの目標としました。
例年なら「日本語ボランティアをしてみたい」という未経験の受講生が多いのですが、今回は日本語講師や日本語ボランティアとして携わった経験のある方が数多く参加されました。各自パソコンやスマホ持参です。Zoomアプリを使って行われました。始めは

戸惑いも多かったですが、最後には操作にも慣れ、画面越しの学習活動もレベルの高いものにな

りました。講師が手配した実習相手は日本国内だけでなくベトナムやアメリカからも参加してくれました。場所を選ばないオンラインの可能性を感じました。

(奥 優伽子)

「ボランティア講座に参加して」

リモートの学習をしました。通常の学習と違う点は、①出掛ける時間が省けるので時短になる。②画面の中という限られたスペースがすべてなので、理解しあえたかどうかがわかりにくい。③大きくアクションするのが良い。④準備が足りなかったときはYouTubeなどを画面で共有して話を進められる、ことです。通常レッスンと同じく気をつけることは、①やさしい日本語を使う。②はっきりゆっくり発声する、ことです。

距離が離れていても画面越しに同じ事柄を共有し合えるのは楽しいです。

林先生、ありがとうございました。（末広裕美さん・水曜日クラス支援者）

■■■ふたば国際プラザ■■■

◆ふたば国際プラザの運営状況

ふたば国際プラザにも秋が到来しました。外に出て活動しやすい季節になったこと、いくつかの企画が実施されたこと、2Fに「多目的活動スペース」を新設したことなどが重なり、週末を中心として賑わっています。語学学習などで地域の方々や団体に施設を利用して頂く件数、人数が増えました。また、多文化共生の施策に取り組む地域行政の方々やボランティアグループの方々など、視察や見学の引き合いが増えた実感もありました。一方、ご近所トラブルの相談もありました。　事業実施においては大人数が集まり接するイベントは依然としてできていませんが、できる事業を着々と進めています。毎月恒例、月末金曜夜の「ヒューマンシネマ上映会」では各国の映画を大スクリーンで無料で見られるという利点から、毎回必ず来て下さる方がいらっしゃいます。(定員は「十分」に余裕がありますのでみなさま「ぜひ」お越しください！)そのほか「日本語ボランティア養成講座」「多文化ひろめ隊養成講座」(外国人住民が講師となり、児童館の子どもたちへ自分の出身国・ルーツの文化紹介を行うための研修会)を実施し、それぞれ盛況を博しました。　毎週土曜日は、一週間で最も多くの事業が行われ、人が出入りする日です。第三国定住ミャンマー難民家族向けの日本語・学習支援教室「しんさくら教室」が日中行われており、今は特に大人の方が12月の日本語能力試験に向けて一生懸命勉強しています。また夕方に行われている、多文化共生の歴史や各国の文化等を英語で学び、多文化理解を深める「English Time」は同プラザに地域の方々が足を運ぶきっかけになればと思い半年前に始めたものですが、老若男女、国籍問わず多様な方が集まる一定規模の活動として定着してきました。それから「英語圏で暮らす親戚などと英語で話せるようになってほしい」という親の希望をふまえて9月にスタートした「外国にルーツをもつ子どもたちへの英会話教室」では幼児から小学生まで3クラスを設けてアルファベットや挨拶を学んでいます。これらの英語の活動には留学生等有償ボランティア事業の一環として英語話者の留学生数名に参加して頂いており、互いの文化理解を進めるきっかけになったり学習内容の幅を広げたりと各事業により多様性がでています。留学生の方も、「地域の人と交流して文化を楽しく学べている」といったことをコメントされています。　そのほか地域との協働も進めました。10月16日、17日はふたば学舎と共催で「通り抜け」縁日を開催しました。数百のランタンの灯りが夜空に映える中、各国のテイクアウト屋台や子ども向けのお菓子プレゼ

ント企画などが盛況を博しました。　あらゆる輪を広げつつあるふたば国際プラザを今後も育てていきたいです。まだ来館したことがないという方は、ぜひ一度いらしてくださ（大石 貴之）

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■
◆外国にルーツを持つ子どもの学習支援者研修会

第１部は、大阪大学大学院博士後期課程、甲南女子大学非常勤講師の林貴哉先生より、外国にルーツを持つ子どもへの学習支援で気をつけるべきことというテーマでお話しいただきました。学習支援に必要な子どもの背景を考える前に、まずは自分の背景を考えてみるということをしました。これまでどんな学校や職場にすすみ、その時にどんなサポートを受けていたかをそれぞれシートに書きました。どんなサポートを受けていたのかは住んでいた地域や年代によっても違いましたが、子どもの頃を思い出し、親に相談していたな、その親は周りの親から情報を得ていたなどいうことを思い出し、目の前の子どもと自分のルートの相違点と共通点をもとにして、子どもたちの今とこれからを一緒に考えていってほしいとのことでした。
続いて、学習に来ている第三国定住ミャンマー難民の背景や学習でつまづくポイントについてお話がありました。学年、来日時期、漢字圏出身か非漢字圏出身などを考慮しながら学習支援を行うこと、そして具体的な学習支援方法についていくつかご紹介いただきました。

第２部では、かつてＫＦＣで学習し、現在は支援者として関わってくれているコロンビア・ベトナム・ペルールーツの大学生３人から話をしてもらいました。それぞれ就学前、小学校、中学校の時点で渡日し、その時に苦労したことや気持ちなど、今ＫＦＣに来ている子どもを支援する上で参考になる話をしてくれました。
「中学生年齢で来日した時、同化圧力の強い日本の学校文化が嫌いだった」
「取り出し授業や授業中に言語サポーターが横に座って説明してくれるなどの特別扱いは、自分を宇宙人のように感じ、思春期だったこともあって、とても嫌だった。『違うこと』がよしとされない日本の学校文化の中で、取り出し授業は恥ずかしくないということを子どもにはしっかり伝えてあげる必要があるのではないか」
「中学生の時の国語の担任教員からテスト勉強の仕方がわからないならと、具体的な学習方法や国語は少しでも書けば点数をもらえることもあると教えてもらったことで、実際に少しずつ点数が取れるようになり頑張れた」
「今は、アイデンティティは自分で決めることで、国籍は紙一枚の話だと思っている。しかし、子どもはアイデンティティがまだ形成されておらず、様々なことで悩んでいると思うので、下手に質問したり、固定概念を持って接したりすることなく、なにげなく話を聞いてあげてほしい」
「高校進学については、保護者は情報がなく、中学生である自分が得た情報から自分で選択するしかなく、重かった」
「来日後すぐＫＦＣで学習し始めたときに、1年前に来日し日本語をすらすら話すネパール人の子どもがいて、１年間頑張ったら自分もそうなれると思って頑張れた」
「日本人に対しては質問しないようなことや、まだ親しくなっていない段階から、例えば『親のなれそめ』などを聞くようなことはやめてほしい」
「外国にルーツがあると、外見に対する期待をされることが多いのも負担で、知り合いの生徒はきれいでないといけないという強迫観念から拒食症になってしまった」
などの話が出ました。

話をしてくれた３人はポジティブな性格で、学習することも好きだということもあって、様々な困難があっても学校生活を継続できる力を持っていましたが、同じ家庭で育った兄妹でも、様々な要因から、学校生活がうまくいかず学校にいけなくなってしてしまうケースもあります。
また、日本に住んでいる日本人はアイデンティティについて考える機会はほとんどないですが、外国人の子どもたちはアイデンティティについて考えさせられ、悩む局面が度々あります。「日本人」といっても、様々な背景を持つ人が増え非常に多様になっている今、外国ルーツの子どもたちの「ちがい」をことさら強調したり、聞いたりすることなく、ひとりひとりの子どもの背景や文化や個性、気持ちを理解するように努め、外国ルーツの子どもたちが生きていく力を十分につけられるように関わっていかなければならないと改めて思いました。　　(志岐 良子)

■■■ 今後の予定■■■

■ふたば国際プラザ
ヒューマン・シネマ上映会
第12回　11月27日(金) 17：30～
「ダンガル」（161分）
第13回　12月25日(金)18：00～
「クリスマスキャロル」（96分）

■ベトナム人対象オンライン日本語教室
11月5日(木)～　　18:00～19:30
学習内容：会話/N3・4対策

■就学前の子どものプレスクール
　2021年１月9日（土)～3月27日（土）
（2月20日（土）、3月13日（土）を除く）
毎週土曜日10：30～12：00　全10回